

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年4月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800075
法人名	医療法人吉祥会
事業所名	グループホーム奏庵
所在地	899-0217鹿児島県出水市平和町236番地 (電話) 0996-62-8186
自己評価作成日	平成25年1月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は平成23年7月1日に開設。同法人ニューライフいずみ介護老人保健施設を本体施設としたユニット型小規模介護老人保健施設、通所リハビリテーション、グループホームからなるサテライト型複合施設である。入居者様やご家族様が安心して穏やかな生活ができる環境作りを目標にグループホーム美楽居をお手本にして係り活動を実施し勉強会や研修に積極的に参加したり老人保健施設と共同の委員会活動等を実施し、職員の知識や技術、意識の向上に努めている。介護経験のない職員も資格のある職員も一人一人の気づきを大切に、報連相を徹底して認知症ケアの理解やチームケアの実践を目指している。

季節行事やイベントなどを共同で計画できるので、入居者様は老人保健施設の入所者様やデイケア利用者様と交流の場を持つことができ、大規模なイベント参加や普段と違う多くの人と触れ合う時間があり楽しまれている。行事開催時は、近隣や地域の方に声かけをして協力をいただいたり施設へ足を運んでくださるように取り組んでいる。

また施設長が医師であり、同医療法人の病院と契約を結び24時間体制での医療連携ができることも入居者様やご家族様に安心をいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○出水市の閑静な住宅街にあり、介護老人保健施設、病院、通所リハビリを併設した複合型施設として機能している。利用者は双方で行き来があり、合同で行う行事等で地域との交流を深めている。

○近隣関連施設と健康管理や災害対策、勉強会など連携しながら行い、特に母体が病院であるため健康面において利用者や家族の安心に繋がっている。

○職員は内外の研修に積極的に参加するなどスキルアップ意欲が高く、理事長や管理者は、研修に対し勤務調整などバックアップ支援を行っている。管理者は、認知症キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座を地域で行うなど、地域の認知症の方や家族の支援を積極的に行っている。

○開設2年目で新しいながらも、同法人事業所と連携しながらスムーズな運営をしている。同法人事業所や市町村、各関係機関と協力関係を築き、地域に根差した施設運営の在り方を日々考え、認知症になっても安心して地域に住み続けられるように体制を整えている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	経営理念を達成するための単年度の目標を作り、実施計画を作成し実施している。	開設時に同法人共通の理念をつくり、地域に根差した施設運営を心がけている。また、毎年、グループホームの目標を決め、理念および各年度の目標を掲示し、ミーティングのときに唱和し意識付け、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭に作品を出展したり、地域のマラソンの応援などを通じ地域の中で交流を図っている。	同敷地内にディケアセンター、介護老人保健施設が隣接し、ホームの窓からディケアの送迎等を眺めることが出来て、ディケアを利用している地域の方との交流を日常的に行っている。管理者は、認知症サポーターのキャラバンメイトとして活動し、地域の人に認知症についての理解を深めてもらい支援者として活動してもらえるようにしている。中学校の職場体験学習等を受け入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	昨年は、市と協力して認知症サポーター養成講座を開催し、地域の方やご家族の参加を得た。今後も継続していこうと考えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の開催で、サービスの状況のや取り組みを報告している。また、運営推進会議のメンバーを徐々に増えている。	2か月に1回開催し、利用者の状況や運営報告を行っている。メンバーには、家族や公民館長等をはじめ、行政等の職員も参加してもらい、地域に根差したホームづくりを心がけ取り組んでいる。家族へは面会に来られた際に参加を呼び掛けている。開設1年目であり、会議の内容が行事や状況報告等に留まっており、会議の運営について改善していきたいと思っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には必ず市の職員の参加があり、助言や意見をいただいている。	介護保険制度改正や関係制度に関する相談や事務手続き、利用者の家族を含めた問題について相談や状況を報告し、情報交換や助言をいただいている。利用者の健康状態についても、報告を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠を含め身体拘束及び虐待にあたる行為を全スタッフが理解し、拘束をしないケアは実践できている。	身体拘束禁止委員会を中心に研修会等を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日頃から利用者の思いを大切にケアの実践を心がけ、利用者の行動パターンの把握に努め、玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を実現している。利用者が外出しそうな時は、一緒に付き添い見守るなど安全面に配慮している。また、言葉による拘束をしないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	隣接する老人保健施設と合同で身体拘束廃止委員会を立ち上げ、言葉による虐待などもないように全スタッフが学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度や日常生活支援事業については全スタッフが正確に把握しているとは言えないのでこれから学んでいきたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は重要事項を説明し不安や疑問点について納得できるように説明は行っている。又、保険の改定時など重要事項も改訂し新たに説明し契約を結んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者や家族の意見や要望は必ず専用の用紙に記録し、施設長や管理者に報告し全スタッフが共有し改善につながるように検討している。重要事項に外部の第三者委員も明記している。	重要事項説明書に相談窓口を記載している。また、利用者や家族の意見や要望は気づきメモに記載し、管理者及び職員で内容を確認し、組織的に対応を検討している。日頃から家族が意見を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に職員会議を開催し、職員と話し合い提案ができるように意見交換をしている。	管理者は、職員や利用者の状況に応じて柔軟に対応できるように、職員が意見を言いやすいような雰囲気づくりを心がけ、悩みがありそうな職員には個別面談を行うなど、職員の意見が反映できるように努力している。また、職員アンケートを行い、意見の反映を心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年1回の昇給と出来るだけ残業しない環境づくりに取り組み、明るく風通しの良い環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内研修と職員会議での勉強会やグループホーム協議会での勉強会参加など、学ぶ機会を多く作り、質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームの管理者とは定期的に食事会を開催し、交流を深め、職員も合同の勉強会や親睦会に参加し地域の中で一緒にサービスの向上を張るようになっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は担当のケアマネや、前施設からの申し送りや主治医の意見など情報を集め、本人の話にゆっくりと耳を傾け関係づくりに努めている。また、可能ならば入居前に本人との面談も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には施設を見学してもらい、現在の状況や不安や困りごとなど聞きながら関係づくりを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、主治医、また必要に応じて担当の理学療法士、担当のケアマネ等の情報も集め、必要なサービスを見極めることができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をする事、その方に自分の洋服を選んでもらう事、一緒に出掛けること、一つ一つを動機づけで理解してケアができるようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月近況報告を行い、また、面会時や必要に応じて連絡を取りながら一緒にケアを行ってもらえるように働きかけている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力でなじみの理髪店を継続して利用されたり、友人や親戚が面会に来られた時は、ゆっくと過ごしていただけるように環境作りをしている。	利用者を支えてくれていた人間関係を把握し、関係を継続できるよう面会、手紙や電話の支援、馴染みの店への買い物などの支援を行っている。また、希望者には自宅周囲を見にドライブに行く等、馴染みの人や場との関係性の継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が会話したり一緒に活動できる雰囲気づくりに努めている。一人ひとりを見守り必要時に声かけしたりトラブルにならないような検討をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院等への入院時は面会に行き必要に応じて相談や支援を行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方の意向や希望の把握に努め、認知症の方でなかなか言葉にできない方が多いので、全スタッフで観察を行い検討している。	日頃から利用者のご家族との関係を大切にし、利用者やご家族の声に耳を傾けている。また、気づきメモを活用し、情報の共有や要望等を把握し、出来るだけ利用者やご家族の希望に添えるように努力している。各居室には呼び鈴があり、いつでも利用者の希望に対応できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントは現在の状況だけでなく、その方の人生歴、趣味や好み、入居に至るまでの状況を出来るだけ詳細に把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時は暫定プランを作成し、その後心身や状況を全スタッフで把握しケアプランを作成するようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやプランは計画作成担当者だけでなく、スタッフ一緒に、作成している。またプラン作成時は本人、家族、主治医も交えてカンファレンスを行っている。モニタリングも同様である。	利用者ごとに担当制を設け、利用者について把握している。毎月、職員全員でモニタリングを行い、職員全員が利用者の状態について把握できるようにし、情報の共有を心がけている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録やその他の記録を毎日行っている。モニタリングは月1回、カンファレンスを交えたモニタリングは3か月ごとに行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付き添いや外出などその方の状況に合わせ行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見や散歩、買い物、外出など折々に地域の公園や施設など活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは24時間体制で連絡がとれ、状態の変化やそれに伴うリスクなど必要に応じて主治医を交えて話し合いなどを行っている。	本人や家族の意向に沿い、入居前から利用しているかかりつけ医の受診など継続医療を支援している。また、理事長である院長に毎日健康状態を報告をするなど、健康管理に心がけ、家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきは看護師や主治医にも報告し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は詳細な申し送りを行っている。また、法人内に入院施設が整った病院があり連携は取れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にリスク説明や終末期に対する考えを主治医も交え家族と話し合い同意を得ている。その後も必要に応じ話し合いを行うようにしている。	重度化や看取りに対する対応について指針を定め、入居時に家族に説明し同意をもらっている。また、利用者の身体状況に応じて、本人や家族、かかりつけ医と相談し、出来るだけ利用者と家族の希望に添えるように努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、実践できるように教育している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練と災害時の対応マニュアルを作成している	夜間を想定した避難訓練や消火訓練を年に2回行っているが、自然災害を想定した訓練は行っていない。災害時に必要な飲食物や備品の備蓄は、隣接する介護老人保健施設で共同で備蓄している。非常災害に備え、地域自治会長に災害訓練への参加をお願いしているが、これまで、地域住民の参加はない。	日頃から火災訓練だけでなく自然災害も視野に入れ、地域住民や地域消防団の協力を得ながら訓練することを期待したい。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方を尊重し敬う気持ちで接することを常に教育している。また、全員が定期的な接遇研修に参加し意識の向上を図っている。	玄関に個人情報の保護方針を掲示し、記録物は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについて、ミーティングで話し合いながら個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間ごとのトイレ誘導ではなくその方のサインに応じた誘導、入浴時も職員が服を選ぶのではなく本人とともに選ぶことなどを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れは緩やかに設定し、その時の状況に合わせ、又その方に合わせて柔軟に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服は自分で選んでもらうこと。散髪は本人や家族などと相談しながら散髪の付き添い援助を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の状況にわせ片付けや、いただきますの声かけ、配膳などお願いしている。	献立は出来るだけ利用者の要望を取り入れている。下ごしらえや味見、下膳を一緒に行い、一人ひとりの意向や体調に応じて盛り付けや量、食事形態など配慮している。職員も一緒に会話をしながら食事をとっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取カロリー計算、摂取量のチェック。食事の形態やトロミ食など本人に合わせた援助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの講習会にも参加し、本人に合わせた口腔ケアの援助をしている・		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、本人に合わせた誘導や声かけ、見守り等を行っている。	一人ひとりの生活リズムや排泄パターンに合わせ、さりげなく声をかけトイレに誘導している。トイレのスペースは広く、歩行器や車いすを利用している人も安心して排泄移動ができるようにしてる。排泄後は温めたおしりふきを利用するなど、利用者が利用者のペースで気持ちよく排泄が行えるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理を行い、繊維質の多いメニューの工夫や乳製品を多く取り入れたり、レクリエーションい適度な運動を取り入れている。また、必要に応じて下剤も使用している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の時間はおおむね午後からとしているが、個々の希望に合わせて曜日は決めずにゆっくりと入れる雰囲気づくりを大切に援助している。	2ユニットを活かし、利用者の希望に沿っていつでも入浴できるようにしている。体調や希望により入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけのタイミングを図って、気持ちよく入っていたできるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせた就寝介助を行い、寝具の調整や昼寝の勧めなど行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している薬のファイルは保管して数量のチェックや用法や用量など全職員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の嗜好品や趣味、生活歴など把握して個別のケアを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	全員で出かけるのではなく、出来るだけ個人の意向に沿う形での外出になるように心がけている。	同法人関連施設の協力を得ながら、車いすの方など介護度の重い方も外出できるように支援している。天気の良い日は外気浴やドライブをしたり、本人の希望に応じて買い物、墓参りなどに出かけ、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、小銭を持っている方は1名。本人やご家族の希望がある場合、基本的に事務所で預かり必要時に本人に払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方にいる家族には状況を知らせるとともに、手紙や電話などお願いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や、臭気対策、まぶしさを感じないようにカーテンで調整したり、気持ちよい空間づくりに努めている。	敷地が広く木々がきれいに植えられ、建物を囲む共有スペースで演奏会を行ったりしている。ベランダにはイスが置かれ、天気の良い日はお茶会、花見や日光浴が行われている。施設内も明るく、リビング、食堂等十分なスペースがあり、思い思いにくつろぐことが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂、中庭などスペースは十分にあり皆さん思い思いの場所でくつろいでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や品物など居心地良く過ごせるように家族と話しながら工夫をしている。	居室の窓は広く、解放的な感じである。使い慣れた家具や寝具、写真などを持ち込んでいただき、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや段差の解消、十分な広さの廊下や部屋など安全に能力を活かせる環境を整えている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない